제39호 1909. 2. 20.

京城新報

人の一生は重荷を負て遠き道を行くが如し急ぐべからず

社會縱横（十二）

みどり

▲寒氣は日一日と蒜果の皮のムクが如くに減退し來り候、梅が笑へば柳が招く、春は追々と我々操觚者が硯の水に現はれ來り候ソレかわらぬか近來世間漸く逆上せ加減の人物のポツ〳〵と出現いたし來るやう見受け候が之れも時節柄是非なき次第に候

▲當年の野田平―宋秉畯には去る十日伊藤統監に隨從し韓太子問安の名の下に花のれ江戸へ出立され途中汽車の烟突より吐き出す煤烟のソレの如く至る所怪火焔を吐き居る樣子に候否な怪氣焔と申すよりも一場の囈語と申す方當れるやに被存候、時節柄ポツと常識を外るゝに至り候も之れ春めく景色の是非なき次第に候はん

▲囈語の中の二三を掲ぐれば曰く在留邦人にしてベツセル以上の人物あり曰く新聞紙の記事は捏造のみ否な誤謬のみ、曰く各部に奉職せる邦人官吏は權勢の爭奪に汲々たり余が豫期とは全然反するを悲む、曰く余は此の行を機として永く日本に住し再び韓國に歸らざるべし之れ氏が在下の韓新聞記者招待會の席上に於て敢て爲したる談話の要點に候（記事は載せて一昨日の本紙にあり）

▲而して更に氏は神戸諏訪に滯在中或る人に語つて曰く日本滯在は二ヶ月の豫定なり又曰く韓內地の人民が統監政治に反抗して騷動を起す場合には多くは米國の宣敎師之が陰謀となり居る有樣なり、察する所如上の談話は朝鮮の事情を知らざるものゝ前にては或は新說妙話として謹聽さるゝやも測り知れず候も苟も足一度び朝鮮に入りしものゝ耳には齊東野人の語とし外考へられず候

▲もし在留邦人にして果して氏が口にするが如きベツセル以上の人物ありと假定し而してベツセル以上の行ひを敢て爲し居らるゝ人物ありとせば何を苦んでか默々に附し居るを要せんや宜しく可然制裁を加ふる事こそ至當ならんと被存候、而も翻つて他に制裁を加ふるの道なしとすれば氏が口にする所の談話は唯に自己一身の愚痴に過ぎずして何の得る所も無之譯に候

▲次に新聞紙の記事は捏造のみ否な誤謬のみとの言は全く傍若無人の言にて寧ろ斯の如き言を發する氏が心根の淺墓なるを憐まずんはあらず候、若し夫れ各部に奉職する邦人官吏が權勢の爭奪に汲々たり予が豫期とは全然反するを悲むといふに至つては今更らながら啞然として言の發する所を知るに苦しみ候、假りに氏の眼より見たる邦人官吏の一部のものが權勢の爭奪に汲々たるものありとするも之を以て今更らしく云ひ觸らし悲むとか憂ふるとかの言辭を敢て發せらるゝは政綱の大局に眼を着くるものゝ斷然口にいたすべき言辭には無之候

▲而して最後に日本を以て埋骨の地とすべしと云ひ置きながら其の舌未だ乾かざるに滯在二ヶ月にして歸國すべしといふに至つては餘りさはいへ輕々しき發言かと存候●總べて斯の如き心に慊焉たらざる事は「思ふべくして言ふべからざる」ものに候、尤も之も時節柄然らしむる囈語とてそ却て彼れ是れと申す余輩の方が大人氣なく被存候以上（十八日午後二時記）

文苑

及川

◎鱻味在舌焉

今朝國許の父から鹽鮭の旨いのが屆いた同時に一封の書面が附いて……サテ其の文句が面白い『朝鮮では鹽鮭が喰べられないから送りました味は飛切上等です……』天保時代の老人の書面としては誠に珍らしい當世向きである、早速一と切れを朝餉の膳に供し久し振りで賞味した後取不敢下の如き返事を差し出した『御惠送下されし鹽鮭正に落手いたしました、早速朝餉の膳に供へ三年振りで賞味しました殘味未だ舌に在り當分樂めます……』と。

◎我輩は鋏である

間零

我輩は鋏である、我輩の生命は過去に於ては重に女子の裁縫用に供せられたものでのつたが近頃に至りては新聞製造人の必用物となつて來た變れば變る浮世哉、而して此の裁縫用に供せらるゝのと新聞製造用に供せらるゝのとは何れがゞ好いといへば何うやら前者の方が好いやうに思はるゝ何となれば後者は使用人が大概ツボラで使用後は毎時ツコ等に放擲さるゝのみか間々[illegible]に出られなくなる場合もある、穴恐ろしく〳〵

光餘影（三）

瑞

魚遊痴史

▲平壤を離れたる余は朝よりの氣疲れ一時に發して睡魔頻りに襲ふ

前後白川夜舟じや無が　眼瞼が次第に夜の滊車

▲車中は警衛の爲め應援として出張の警官を滿載せるを以て掏摸や其他の危害の虞なきに心安んじ遂い熟睡して夢に大小二十驛の停車場を過ぎぬ

心地夜滊車に逐恍々と　夢中で旅行をしん●●

▲驛員が新義州々々と呼ぶ聲に眼を覺し摩誤々々車中より飛び出せばイヤ驚いたり面を刺す鴨綠江の川風冷る冷たる與夜中の空氣は耳も鼻も斬るゝ計り

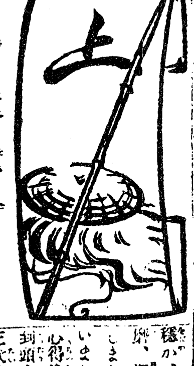
私しや初めて鴨綠江の　風がしみ〳〵身に應へ

▲余の宿舍は應援の警官五十餘名と共に停車場通りの入船と云ふ當地第一流の料亭を以て充てらる然るに突然の事とて此樓の狼狽一と方ならざりし

客が突然かに入船樓は　轉覆返へる樣な大騷ぎ

佐倉宗吾（十）

眞龍齋貞水講演



加『然れども之を除いて次男を以て世襲になすこと、世間の聞へも惡しく、又總領を差置いて家の騷動を招く事、和漢に其例多く、河北の袁紹は、家督論より其國を亡ぼし、荊州の劉表は、次男に家督を讓り、總領を差除きし故、親子黑白と立分に、其家こゝに滅す、然るに依て、總領上野に、十八萬石の家を渡すが、只々行末が心許ない、依て汝等、冥途の先驅は思ひ止まつて、正盛死後の儀を賴み置く、播磨は江戸表に殘り、大和は國へ乘込んで、江戸國合せて、兩名よく心を一にし、家を守護してくれよ、草葉の蔭にて其方共の計ひを見て居るぞ、賴むぞよ　播、大『ハ、ハーツ』二人の顏を御覽わそばし、御落涙あらせられた時に、兩名の御家老は、暫時の間は言葉も出ませぬでありましたが、是非に及ばず　大『此度は主君の御供遊ばして、冥途に赴かるゝ御覺期を見たてまつり、茲に吾々、冥途の御供願ひし申變もなく、右の御誼でございますれば、臣等よく御言葉を服膺り、江戸國と立別れ、播磨は國政を執り、又この大和は江戸御家中を取締り、必ず御幼君を補佐し奉りますれば、何卒御安堵下し置かれますやう　加『誠に其一言安堵いたす、明日は登城に及ぶぞよ』との御言葉、こゝに兩御家老は、恐る〳〵御寢床を退がる、愈よ翌日となると、堀田加賀守紀の正盛、御城中へ御登りになると、此日四月二十日、三代將軍家光公、こゝに御壽命つきて、御四十八歲にて御逝去になりましたから、加賀守紀の正盛、[illegible]供腹を切て相果てました、斯く正盛公の御代には、誠に御家も穏か、殊に御逝去に成る其後は、川越播磨、堀田大和の兩名は、飽までも守護いたしましたから、一時御家は無事安泰でございましたが、其後に及んで、終に上野助御心得違ゐより、[illegible]老城代の國政[illegible]到頭十八萬石は潰されました、けれども故三代公に取りましては、格別の緣因を有ちまする御家でありから、後ち上州吉井、江州宮川の兩所に於て、一萬三千石に御取立になりました、併し是は後の御話し、尤も此追腹と云ふ事は、容易ならぬ事でございまして、未だ三代公までは、表向きは無いが、內部では追腹がございました、此二代將軍樣が、寛永九年正月二十四日、御遠逝になつた時に、御側に御勤め申して居つた、森川出羽守が追腹いたしました、すると其時分、永井右近太夫直政と云ふ者があつて、森川と同じやうに、二代樣の御側に永く居り、後ち御老中に成りましたから、追腹は此人が切るであらうと思ふと、森川出羽守が追腹をして仕舞つた、それだから其時分の落首に

ながめして人の誹や倚まさる
出羽に越されてしなの惡るさよ

と詠みました、だから御役を長く勤め、時機を失ふと、とんだ評判が惡く成る、天下の御政治を御執り遊ばす閣老方さへ、忠勤を勵んで居れても、場合に由ると、さう云落首などで叩れる事がございます所が其事を能く御心得になつた堀田加賀守は、三代公の御別れの御言葉に由り、最早主君の御生命も、今明日と察し、家に歸つて覺悟を致し、立派な追腹を切りました、そこで三代樣の御遺族は、一旦東叡山へ御入棺になりましたが同二十六日、東叡山御出棺、二十九日日光へ着棺になつた、だから三代樣の御燈籠などは、皆な上野へ御獻納に成て居りますが、御尊骸は、日光へ納まつた、然るに當時の評判に、上野へ御入棺いたしたのが、三日目に[illegible]て日光へ往つて御仕舞なすつたから、天狗の所業などと謂つた位でございます、そこで三代公の後は、家綱公が御家督で、益す万代不易でございますが堀田家は、御子息上野介正信殿の御代と相成り、終に一大騷動を惹起すに至りました



北韓開拓と反響

京城新報

北韓の開拓は大陸經營に至大の關係を有すること、殊に鐵道の布設、港灣の改築、北日本との交通、日本海と黄海との連結の須要にして急務なることを余輩は屢々論じたりき、今や反響は盛に起り來れり、北韓在留邦人の重立ちたるもの五百餘名淸津に會し速成を期するの決議をなし、元山商業會議所も請願書を提出せんとし、祖國に於ては敎賀舞鶴等の有志者其協議をなしつゝあり、亦一昨日の東電に依れば北韓開拓の建議案は帝國議會に提出せられたりと云ふ、建議案の趣意は北韓鐵道の布設則ち淸津港を起點として會寧を經て吉林に達するもの及日本海諸港中適當の所に直通航路を開始するに就て相當の補助を與ふ可しと云ふにあり、之れ實に帝國の大陸經營に於ける須要の問題なり、帝國議會は如何に之を決議すべきかは素より知る可らざるも、苟も帝國の國是を知るものならば衝て贊同せざる可らざる問題なり、唯余輩の遺憾とする所は淸津港を起點として元山津に及ばざる事なりとす、國家が之を助成するとすれば何ぞ夫れ進で元山津を起點とせざる、元山津を起點とすれば京元鐵道若しくは平元鐵道の布設せられたる曉に於ては之と連絡す、れば直に日本海と黄海とは連絡さるゝなり若し夫れ提出者の意が先づ當面に於て北日本との交通上淸津港を起點とし漸次元山津にまで延長すべしとならば可なり、此北韓鐵道にして布設さるゝに至らば北韓及北日本と北滿州との貿易は無論著しき發達を見るのみならず、之が爲に邦人の北韓及北滿州に移住するもの增加すると共に農産物の發達を促すは自然の勢なり、啻に農業貿易の隆昌を見るのみならず、交通運輸機關の備るに從ひ、沿岸の漁業、鑛山の採掘、森林の伐採等盛に起り來る可し、玆に於てか荒漠たる北邊の面目を一新して北大陸經營の門戸たるに至るべし、浦鹽の自由港閉鎖の運命も既に定れるものゝ如し、此際に北韓樞要の港灣を修築して北日本との連絡をなすは最も機宜を得たるものなり、從來浦港を經て北滿洲に入りたる貨物は此鐵道に依りて輸入せらるゝに至るべし、要するに此問題は啻に北韓在留邦人のみの利害に關することに非ず、帝國の大陸政策上至要の問題なれば當局者は勿論全韓の在留邦人も亦た之に聲援を與へて帝國議會をして決議せしめざる可らず、而して韓國前途の國防自衛の點より見るも北韓の開發は須要の問題なり、故に韓國政府としても之が速成には充分なる援助を與ふるを要す、之が爲には外債を起して補助するも決して無要にあらず、余輩は極東の大勢より平和確保の爲にも北韓開發を急務とするものなり、余輩が屢々之を繰返す豈謂なしとせんや、

●鎮南浦水産會社發展　鎮南浦水産株式會社にては解氷を俟つて大に事業の發展を試[illegible]魚の運送をして益々迅速ならしめ[illegible]直ちに船中に於て之を行ふ等の[illegible]來行務日に忙しく第一期の決算期たる八月より十二月に至る四ヶ月間の[illegible]

東京電報

▲韓國横貫鐵道　金尾稜嚴外二名の質問に對し政府は左の通り答辯せり
韓國横貫鐵道は政府も其の必要を認むるも敷設の期は明言し難し又敷設の方法に就ては目下調査中なり

▲交通建議案可決　政友會調査會にて三浦覺一の提議に係る北韓鐵道改造及び北韓並に日本海通航開始に關する建議案を可決す

▲富士常盤坐礁　軍艦富士常盤は大隅沖にて坐礁し被害多大應急修理中

▲統監政治質問　大竹貫一氏より左の質問を提出せり
一、統監府の韓國保護政策の方針如何
一、統監府が地方行政刷新に對する方針如何
一、統監は韓國の情勢に適せざる法令を濫發し徒らに文明の制度を潤飾するを以て改善の急務とするが如し其の効果如何
一、韓國に於ける日本官吏の風紀弛頽せり尙韓國官吏の擯斥たるを得るや如何
一、統監府は新聞其の他言論を壓迫し韓國の異想を蔽ふ狀態あり事實如何
（以上十八日發）

雜報

●官撰民長撤廢に付　當地官選民長令撤廢期成同盟會にては一昨日幹事會を商業會議所樓上に開き左の決議を爲したり
大内代議士の提出したる民長公撰法に贊成せざる代議士は在韓同胞に對し同情なきものと認む
尙大内代議士より受取りたる公選令建議に關する電報は幹事より各民團へ移電したりとの事なり

●民團法改正案　居留民團法改正法律案第三條に「民長は居留民會に於て之を選擧し監督長官の認可を受くべし」との議を衆議院に提出したる代議士大内暢三、柵瀬軍之佐、福井三郎、金尾稜嚴の四氏の建議に贊成したる代議士は（政友會を除き）尾崎行雄、犬養毅、河野廣中、武富時敏、花井卓藏外百六名ありたり

●中樞院の建議　既報李懇烈外二名より中樞院に建議したる宋内相角潭の格闘問題に關し同院は審議の結果一昨右の建議案を内閣に移送したりと

●學校令と教會　私立學校令に關しては外國宣教師及び韓人間に種々の誤解ありし模樣なるも當局者が説明の結果何れも其の誤解の訂されたるもの々如く其の規定に準據し總て私立學校設立認可の申請をなしつゝあり特に外國人の經營に係る美以敎會、長老敎會、英國聖公會天主敎會等に屬する諸學校も共に同令に遵び學部に其の設立認可を乞ひつゝありとせり

●統監の荷物滿載　十五日名古屋驛を通過したる伊藤統監の荷物は百人乘ボギイ車に滿載せられありしが之を眼にし又は耳にしたるものは今度に限りて統監は渡韓せざるべしと噂し合ひ居れりといふ

●仁川官撰反對運動　民長官選令撤廢建議は衆議院に於て委員附托となりたるより此際在韓の各民團は猶起して撤廢の實を擧げざるべからずとて京城民長官選反對同盟會より一昨日仁川民團に照會ありたるを以て田中議長は即刻各委員に對し回文を配布し協議したる結果右の電報を衆議院各部委員に宛て發する事に決したりと云ふ
民權擁護のため在韓居留民團民長官撰を廢し民選とせらるゝ樣切に貴下各位の御高配を懇願す

●昨日の民團委員會　十九日午後一時より京城民團に於て山口、曾我、皆川、古城の四委員出席民團稅則改正に關する件中村、中島、大村、石井の四委員は漢城病院規則改正に關する件の委員協議會を開催し右二件を協議せり

●滿鐵輸送の噸數　滿鐵の輸送噸數は三十九年度十五萬噸四十年度三十万噸、四十一年度は十月までの十ヶ月間に六十萬噸となれりといふ

●學務主事の任選　本年度より各道に配置さるべき勸業土木敎育の三事務を處理すべき主事の內學務に關する主事十四名（漢城府及び各道一名宛）は學部に於て候補者の人撰を了し目下內部と交渉中なる由にて不日任命發表せらるべしと云ふ

●密陽府北面紛擾　密陽府北面退化洞外五洞よりは曩に該地國有山林拂下げ方申請中なりしを以て同部成本孫三郎外一名出張して現地を調査せんとしたるに之れと直接の利害關係を有せる廳内大頂里外三洞の韓民は該調査を拒み成本技手の所持せる文書一切を掠奪したるより紛擾を起しあはや大事に至らむとせしが十六日密陽憲兵分遣所より上等兵に補助員若干名を附して直ちに現場に急行せしめたりとの報あり

●財務主事の增員　過日發布されたる家屋稅、酒稅、煙草稅實施の結果は地方財務署及び財務監督局の事務繁多となるを以て其の職員の定員を增加するの必要あり遠からず其の官制改正をなす筈なりと云ふ

●警察署長の會議　若林警視總監は本日午後一時より管内の各警察署長を警視廳に召集し警察事務に關する會議をなせり

●仁川金巾界現況　仁川に於ける金巾の商況を聞くに外國金巾は去月來上海よりの輸入品皆無なりし爲め支那商人間に於ても一時品切れを見るに至りたれば從つて其の價格にも又多少變動を來し若干の昂騰を見たるも日本金巾に至りては去月と何等變る所なく目下「三エ一」印百三十圓にて賣買せられ居れりといふ

●大韓毎日發賣禁止　大韓毎日申報一千二十七號（昨日の分）は其の筋より治安に妨害ありと認められ發賣禁止を命ぜられたり

●貧兒學校設立計畫　釜山福田增兵衞氏は同地民團在留邦人の子弟にして家計困難なる爲め就學せしむる能はざるものゝ爲め近き將來に於て是等貧兒を敎育すべき學校を設立すべき計畫なり此等兒童の家族は多く漁業者に在り而して此美事韓國倉庫佐々木淸麿氏の聞く所となり續て高瀨副理事官の贊成となり同官は自ら敎鞭を執るべく契約なせし由孰れにしても一大美擧と言ふべし

●釜山重要輸出入品　去る十七日の同港重要輸出入品は左の如し
▲輸出の部　下關揚大豆六三九叺、煉瓦一五箱、鮮魚一五箱、麴一五　▲神戸揚大豆五一叺
▲輸入の部　淸津積麻布二個　▲元山積黄蜜二個、晒金巾一個、明太二個、寒天五箱

●大邱地稅徵收概況　大邱財務監督局管内の地稅は一個年二百四十萬圓にて昨今納入高は百七十萬圓殘額の三割は三月末迄に徴取し得らるべしと云ふ

●己酉儀約三百年祭　豐公征韓の役日韓[illegible]絶陽三月の候必ず實行せらるゝに至るべし

●東萊邦人會長再任　東萊日本人會長黑田光藏氏は創立以來其會長の職にある數年今回滿期となりしも再任し其筋の認可を經たりといふ

●理事廳々舍新築期　太邱理事廳々舍新築については目下設計中なるが晩くも四月上旬には入札に付せらるべく工費は約三万六千圓位にして九月末迄には竣工せしむべき豫定なりと云ふ

●勸業會社創設計畫　今般草梁に於て韓人旅有鵬外五十餘名の發起にて一大勸業株式會社を創設せんとするの計畫成り目下韓國度支部に宛て出願中なりと云ふが總資本金は約三十万圓にして一株五十圓總株數六百の見込にて之れを東萊、金海、密陽、梁山の四郡に宛て募集すべしと云ふ

●柳生台銀總裁入京　臺灣銀行總裁柳生一義氏及び同大阪支店長山成喬六氏は一昨夜入城天眞樓へ投宿せり

●京大出身者懇親會　京都大學出身者の諸子は本日午後五時三十分より淸華亭に於て懇親會を催ふすとの事なり

●柳生總裁歡迎會　今回來韓したる臺灣銀行總裁柳生一義氏の爲め台灣に關係ある者を以て組織されたる臺灣協會會員は本日午後五時より京城ホテルに於て歡迎會を催すとの事なり

●岡運輸部長出張　鐵道管理局岡運輸部長は本日龍山より出發約三十日の豫定を以て東京に出張せり

●救濟事業と注意

近時孤兒院等內地各地の慈善團體員にして韓國に渡來し居留地官民の贊成を請ひ慈善會音樂會等を開催し多額の金圓を募集する者年々其數を增加し爲めに地方に依りては迷惑を感する向も尠らざる趣に付爾今亦十字社愛國婦人會幷に東洋協會の如く韓國に於ける慈善救濟の事業を目的とし又は韓國に關する諸般の事項を研究する等直接に韓國の福利增進に關係あるものゝ外は成るべく奬勵方差控へられたき旨總務長官より各理事官宛通牒せられ居る由なりといふ

●東拓總裁の談話　（上略）本會社第一着の事業は世評の如く土地の引繼ぎと金融部の開始にして土地を引繼ぎたる後は之を如何なる方法にて經營すべきか固より成案の存するものありと雖も今之れを具体的に語る能はず邦人は移民云々とて頻りに唱導する者あるも假りに例を擧げて述ぶれば韓全國に散在する驛屯土に對し一々之れが監督者を置けば會社の損益果して如何何人も直ちに首肯すべき處にあらず今又驛屯土には合音なるものゝあるより是等に就ても改良を圖ると同時に收益を增すの途をも講ぜざる可らず而して拂込額四分の一以外の土地は貸借の方法にて五分五厘乃至五分七厘位ならば相當なるべし要するに會社が事業の經營は韓國の開發を以て任じと日韓共同の利益を謀るにあるなり云々（京城通信社所報）

對東拓希望論評

大會社の存在を看取せしむる要（其五）　南村生

比較的に迂愚ならざる韓友突然問ふて曰く有名なる拓殖會社は既に設立せられたる歟と、予は眞面目に然りと答へぬ、彼れ又笑つて問ふて曰く然らば其會社は何れの處に設けあるやと、予は之に答へずして話頭を所謂韓國元老の近狀に轉じ、幷が頗々として凋落する間に時勢は駸々として推移しつゝあるを物語る、彼れ辭して去りたる後予竊かに推ふに彼れは無論拓殖會社の設立を知らざるにあらず、又た其會社の所在地をも知らざるにあらず彼れは多少の寓意ありて斯かる奇問を發したるのみ、此奇問は予に取りて端なく一種感慨の種となりき蓋拓殖會社は今より殆んど二年前の計畫にかゝり今日の實現は寧ろ迅速なる遂行と云ふ可らず、然れども此會社たる先づ其方針より云ふも將た其着手の方法より察するも、乃至其局に當る人撰より稽ふるも、須らく細密の注意を拂ひ研究の上に研究を重ね苟も蹉跌するが如き組織をなす可らず、此見地に立てる予は其會社の設立が余りに迅速ならざりしを恨事とせず、然れども注意の上に注意を加へ今日漸く實現せられたる會社は果して世間一般の滿足を買ひつゝあるや否や**露骨**に云へば**頗る疑**はしからずや。

此會社たる謂ふ迄もなく多少の生質こそ異なれ印度に於ける東印度會社の如く其使命至大にして其責任至重なり、其至大至重なる使命と責任とを荷ひつゝある總裁以下重役等の人物評隲は今日之を試むるの資料を有せず又た之を試むるの時期にあらずと思惟するが故に輕々しく之をなさずと雖、然れども此種の會社たる其業務の開始期に於て特に用意の周匝を望まざるを得ず、些々たる事の如きも明洞にある會社の位地は其所を得たるものなるや否や**建物**の振はざるに至りては**一層甚**だしきにあらざるなき乎、思ふに會社は近く新造せらるべく、又た建物の美醜は會社の實務に何等關係なきが如しと雖韓國に來りて此觀念に支配せらるゝ人あらば幷は頗る不利益なる考案にして延て會社の**威嚴**に關する異想外に出づべきを忘る可らず、皮相の外形によりて其內容を推定するは**韓人獨得**の技能なり、滿鐵の着手の如き、花々しき空景氣は無論歡迎する所にあらざれども其使命に伴ふ相當の威嚴を保つ範圍に於て韓人の閑却を惹くが如き陋態を此開設初期に於て永く演出するは予の大に心配に堪へざる所也、他に尙其業務と順序につき多少の希望あり又た注意を促すべきことありと雖、幷は他日に讓り、先づ前提として**會社の存在を內外に看取**せしむるの手段に出づべきを當局に慫慂せんこと是れ予が第一の希望たる也。

●本日の集會

●南山本願寺說敎　本日午後七時半より例の如く說敎あり
●龍山本願寺　本日午後七時半より伊藤開敎使の說敎あり

公人私人

▲野手耐（元山稅關長）　一昨日入京不知火旅館
▲阿部捨太郎（憲兵中尉）　一昨日入京山本旅館
▲藤井秦秀（憲兵中尉）　一昨日入京山本旅館

●近事片々

▲伊藤大師歸東して韓太子の喜び一方ならずと伊公も亦胸中に言はれぬ喜びあらむ
▲至誠は伊公の常に唱ふる所而も實際に公は至誠あり此點に於ては他の元老に優る
▲大朝記者三宮大阪間汽車中に伊公に面して公が兵庫縣知事時代の事を語る面白し
▲明治二年俊介時代兵庫知事たる今大阪神戸ヘラルドに若年知事俊介の批評を爲す
▲其歐字新聞朝日社にありと告るや公は破顏微笑徐ろに往昔を感想し感慨極りと
▲若し公にして兵庫知事時代を回想せば何事も寄る年波には叶はずと浩歎せられん
▲其ヘラルドの評に同縣の責任年若き俊介氏の双肩にあり手腕を揮て任を完ふせよ
▲恰も子供に諭すが如き筆致也在留外人連には好人氣を以て迎へられたるが如しと
▲俊介時代の伊公は斷もあり雄もあり略もあり天晴れの政治家今や其面影ありや否
▲一進會連中は宋の東上に就て一生面を啓く可しと期待し居ると云ふ果して然る乎
▲宋の東上が何故に一生面を啓くか門外者には何だか譯が判らぬ天機を伺ひ度き者
▲李容九と會して何事か例によりて策ずると云ふ意味か當て事は多く當越褌でムる
▲眞面目に生面を啓く杯と待ち居らば全く空喜になるの恐れあり御用心然るべく候
▲宗務院問題は消へたかと思へばまだ認可するのせざるのと騷ぎ居る墓梅偖可笑や
▲亦た一方には寺院附屬の山林調査をなすと早くも之を所置して坊主共に引導を渡せ
▲山林や田がある爲に種々なる細工を試みる輩ありとすれば之を取上るも亦一策也
▲春畝獎勵の爲に桑苗を全國各道に配布すると云ふ韓國も纏ては絹糸國とならん乎
▲田中宮相は例の小林孝子がどうしても思ひ切れず何事を犧牲にするも結婚せんと
▲既に密かに白木屋に孝子の衣服を誂へたりと年寄りの戀は中々執念強いものなり

●南部水產會社發展　鎭南浦水產株式會社にては事業を發展せしめ大に事業の發展を試み運搬機關の改善を行ひたりといふ而して同會社にては今回小汽船一隻を購入して鎭南浦へ是等の運搬物資の供給をなし且ず鮮…直ちに船中に於て之を行ふ等の便を計るべく猶本年よりは釜山水產組合に於て鎭南浦に支部を開設する由

●咸鏡農工銀行成績　咸鏡農工銀行は近…八月より十二月に至る四ヶ月間の短期間に於て三千五百圓の純益金を出し年一割の配當を爲すに至りたるは非常なる好成績といふべし

兩國の修交破裂せし後己酉條約を以て兩國の和信再び締結せられしは…本年は三百年目の己酉の歲に際せるより釜山港にては盛に紀念祭を擧げんとの議起りたるが何れ…と云ふ

雜報

●七代目 芳村伊三郎(十三)

▲藝術修業の困難

二日目は　皇后陛下の天覽である。藝題は關羽、寺小屋、土蜘蛛、忠信、元祿花見踊、勸進帳等であつた。寺小屋で、團十郎の源藏に菊五郎の松王であつたが、團十郎の源藏が秀調の扮した女房戸浪と二人で御主君に對する誠忠を現はす例の團州一流の腹は看る人をして泣かしめし程で殊に、皇后陛下にはポケットよりハンカチを御出しになり靜かに御眼を蔽はれた、席が靜まつて一人の役人來て團十郎に向ひ其方は　陛下に御落涙を催さしめし故本日切腹を命ぜらるべしと仰渡した位で、團十郎は殊の外面目を施した。

●第三日目に　天覽の藝題は前日と同じであつたが其中勸進帳は初日二日目共末松謙澄さんの指揮で文句を替へた箇所があつた即ち「浪路遙かに」と改め「判官御手をもろ手」と改めしを此日は侍從の老役人が來て原作通りやれ末松如きが近松の名作を直すは生意氣だと怒つたが末松さんへ今さらは遠慮があつて其侍從はきかない時でから仕方ない、皆々原作通りを演じたが、話しが後戻りするが二日目の元祿踊りは殆ど總出で丸で鬱廻しの樣な事を爲るが小團次が春雨を躍つて、父の伊三郎が唄ひ六之助が彈いたが、其文句がサーナンデモヨイワイナーと云ふ處になると役人がやつて來てコラ〱と後から注意したものだから急に辭を低くした

●四日は大臣　連中其他前日に附添ひの役人達の拜觀で狂言は前日と同じであつたが此日は勸進帳と寺小屋を拔いて初日に出した高時の天狗舞をやつた、三日目迄はさしもに靜蕭莊嚴を極めし場內も此日は頗る騷々しく大臣抔と云ふものは騷々しい者だと一同眉を顰めた、爾來如斯天覽は屢々ある事と、何れも期待せしに今に其事なければ實に彼時が一世一代の譽れで無上の名譽と言ねばならぬ

●銀行員の不身持

……女狂ひや花合せ▲初は京城中は龍山終は仁川……

無頼漢なら兎も角も苟も社會に信用を重ずべき銀行員が左迄墮落の淵に身を沈むるとは偖而〱沙汰の限りにこそ當地南大門通りは鑛路に程近き韓人町に近頃築かれし○○銀行とて知る人ぞ知るヨボ銀行あり其の行員殿に年の頃なら二十と四五の某と云ふあり別に是と云ふ素養のあるにあらねど今では同銀行の事務員と迄成り上りたるが此男至つて生意氣者にて去る明治三十七八年頃は當地新町遊廓の帳場とやらを務め居り其頃より當地某料亭の鶴子と拍子と何時の頃よりか情を通じ初めの間は互に世間體が末長くと都々逸文句の夫れならぬ至極密みり通ひ居たるが淺い樓で深いが戀の淵何時か互に情深く果ては世間の噂さが高からふが人の口が五月蠅からふが幵麼な事には頓着なく我から天下の色男氣取りで幵所よ此所よと小料理店に呼出して嬉しき逢瀬の樂しみを極め居たるが如何な鐵面皮の某も樓主側に知れては其儘にはされず總に吾から遊廓の帳場を辭して一時人目を避けて日本へと歸つたもの丶什ふしても鶴子の事が忘れられず偖而は再び渡韓して終に今の○○銀行に入り込みたるが還俀は銀行を鼻に掛けて如何なる都合の魂膽を廻したるが可愛い鶴子をば廢業させ人目を隠くす一時の洒れに自前藝妓と名乘らせて當時仁川八景閣にと突出したるが幵が當時の顛末は其頃京仁の新聞紙が二三日も連載して某が艶名一層高くなりたれば如何に千枚張りの某も是には少々閉口して支配人や同役の手前もあらばと早速鶴子を仁川の八坂樓にと鞍替させ表面は何喰はぬ顏の半兵衛にて知己友人を瞞着しながら裏面では今尙ほ遠き七里の路も雪が降らふが風が吹こうが鶴子故なら何の其のと云ふ誤勇氣にて切られ通ひ竹原旅館で密會なさる費用の點も疑ぶる其の上此男近頃は有らふ事か有まひ事か殆んど毎夜（確かに毎夜）當地某料亭に這入り込み人の手前も憚らざるのみか身分の程も顧みず金錢で賭しての花合戰殊に日曜日などは早朝より勝つた敗けたの大爭ひに時には徹夜するなどはイヤハヤ銀行員の行爲にもあるまじき事果して夫れが眞かさ入らざる處に念押さば欺言じやなくつて眞實だよと確き話を聞いた儘

●月下樓のストライキ

▲サーリットハツライチぞか何んとか仰有りましたかナとは二階で亞呆客が唄ふのみかと思ひの外是れは又本當のストライキとは眞に辛い話しならずや當地新町遊廓月下樓主人の禿げ頭は同樓米吉と深く契り家內の手前も妓共の手前も憚からず醜態を演じたる事は其都度新聞紙の種と成り居れば今更書立つる程もなきが此主人の不身持に憤慨せし同樓の妓共を初め仲居等に至る迄何れも同盟休業を爲し偶々客が來れば之を外の樓に伴ひ行き一切營業を爲さざるに之を見たる主人の禿爺はドこナ事を爲られても米吉には替へられないと二本棒をイヤと云ふ程垂らし居れりとは亞呆の骨頂と云ふ可し

●博徒の跋扈　仁川宮町三丁目飲食店七福亭へ昨日午前三時頃京町二丁目居住の博徒美濃德松の乾分なる京都生れの外見米吉(三十)兵庫生れの松本卯吉(三十)の兩名入り來り散々飲食したる上イザ勘定の段となるや懷中無一文なりければ亭主は嚴しく支拂の請求をなしたる所之れに應ぜざるのみならず脅迫がましき言語を列べて亂暴をもなしかね間敷き權幕に亭主は竊に右の旨宮町派出所に屆け出で警官の出張を仰ぎたれば警官出張の上翌朝支拂をすることゝなして示談を遂げ尙ほ後來を戒めて放還したり

●家出人搜索願　宮城縣刈田郡宮村字町七十番地金貸業遠藤總四郎長男總十郎(二八)と云へるは去る五日舊正月年賀の爲め同郡福岡村の親戚の許に行きたる儘歸宅せず家內の者は大に配慮中數日を經て下之關より書狀來り韓國京城に趣く旨認めあるにぞ家族の者は大に驚き同人不在にては取引上頗る蹉跌を生ずるとて其所在搜索の上相當保護相成度旨一昨日父總四郎より書面にて南部署に願出でたりと

●婆の醉潰れ　京城南大門外待井精米所前居住無職土井原ムラ(五三)と云るは昨日午前三時四十分頃明治町一丁目五十五番の空家に寢て居るを巡廻中の警官之を認め起し旨を告げしに警官は自分を泥醉したりとて大聲に怒鳴るにぞ警官種々說諭を加ふもヘレヘレケになり居る事とて容易に聞入れず色々宥めたる末其知人同町末廣新三郎方へ連行しやりたりとは厄介の婆さんなるかな

●仁川のボヤ　仁川紐峴李裕覚より一昨日午後四時頃失火し將に大事に至らんとせしが幸ひ白晝なりしかば近隣の者駆付け直に消し止め漸く鎭火したるが原因は韓童が火を弄しそれが薪炭に燃え移りたるものなりといふ

●天然痘患者の死亡　仁川京町一丁目德永六市(三二)は去る十七日天然痘に罹り仁川病院分院の治療を受け居たるが一昨日全治退院又仁川月尾島稅關見張所川島周造長女しげ(二)は去る十七日同病に罹り即日死亡

●傳習所員の只飲み　京城工業傳習所內の內藤與作(二六)と云へるは一昨日午前二時五十分當地大平町二丁目十番戶飲食店永樂亭支店德永淸吉方に於て無錢飲食を爲したる爲め警官出張南部署に引致さる

●密柑泥棒取押らる　京城南署治峴李長植(三十)と云へるは一昨日午后六時半頃本町一丁目雜貨商辻本笠三郎方店頭にありし密柑一箱を竊取し逃走中本町派出所の警官に取押へられ南部署に引致さる

●靴三足を盜まる　當地南山町一丁目別所亮生は一昨日午前九時頃自宅玄關口に置きありし赤編靴(代八圓)黒編靴(代六圓)及び黒半靴(代八圓)を盜難に罹りたる旨南部署に屆出づ

●新市樂黒紋附羽織地　上野國桐生町大和屋呉服店が苦心經營の結果發明せる新市樂及新羽二重黒紋附羽織地は從來の染色法と異なり輸入染料にて化學的熱度染色法を應用したれば色澤美善にして變色の憂ひ毫もなしと云ふ代價は當分の內新樂三圓八十錢新羽二重三圓五十錢に割引販賣する由詳細は廣告欄にあり

●演藝●　當地歌舞伎座本日の替りは「爆烈彈」全十幕にして役割左の如し　山本少佐(三輪)中野貞一(西)吉田大尉(池田)貞一妻(上田)惡漢權次(稻葉)未亡人民子、娼妓花扇(日東)
▲永樂亭　諸藝比べ本日は左の如し　大阪落語(七輔)講談中山安兵衛傳(百朝)新內蘭蝶(若太夫、妻吉)義太夫先代萩(梅笑)講談大久保源次の傳(吾樓)曲藝ステヽコ(遊七)義太夫鎌倉三代記(大之助)落語(遊七)



◀平民文庫▶

▲本町四丁目に○○と云ふ時計屋がある引き越してから近邊に挨拶も爲ない相だが主人は大の耶蘇信者であるゲナそして修繕した裏の小屋には職人やら韓人やらが毎晩遲くまでランプをつけたまゝ雜談に耽り夜明けまで其の儘で有ることも珍らしからぬ主人等は何所へか別居して居るとのこと此の頃の火事を思ふと同主人に注意す(近所の男)▲木尾附郎君よ少し職人部屋の火の要心をされんことを高子か淫蕩だからとて何も京城樓主の知つたこちやあるまい弱い者苛めは止し玉へ(一俠客)▲今日此頃のように血腥ひこと計り頻發されては堪らぬ(花の屋)▲斯う溫かでは梅や桃が咲くのに間もあるまいが麥や米の作柄が何うあらふかと思ふと嬉しい樣で心配にもなる(土百姓)▲淺岡の信ちやんは五百圓出せば嫁に貰へる相です(仁川生)▲仁川の紳士中には江戶の仇を長崎で打つ的の杜打がある卑劣も極まれりだ(憤慨生)▲大君のれ春君大變別嬪になつてどこアノ人が褒めて居ましたよ(友人)▲看護婦と云ふものは尻の大きい擶になんでマア輕いのでしよう(吃驚生)▲南山町の某看護婦會は不當の金を取るがアレは主人の婆さんが色男に注ぎ込むからだとさ(近所の男)▲關稅局の書發の時二階では永濱局長初め鎰錢ばかり叫ばれて下女の呼ばかりで凡そ一時間位毎日の樣に持切りとは氣の毒な役所ならずや(小使)▲仁川の翠さんも約束の若殿つて頂戴(もの字)▲靜千代の大眼玉とやん茶裙の糸筋眼とは面白いコントラストだ(捌烈菌)

●天氣豫報(自十九日午後六時至二十日午後六時)　北西の風午後晴溫度降る

十八日　最高溫度(華氏)四六、八　最低溫度　一九、〇

本日午前六時韓國氣象概況　今朝低氣壓は韓半島に上陸せんとし別に他の低氣壓支那東海に存するを以て全國一般に天候不良にして降雨しつゝあり